

渡辺ハウジングOBの皆様と
未来のお客様にお届けする

やすらぎ通信

渡辺ハウジング
03-3959-8743



心せわしい年の瀬、皆さん如何お過ごしでしょうか？
紅葉が美しい時季にまさかの雪景色…など段々と季節感が薄れていくようで寂しい気も

しますが、時間だけは常に正確な時を刻み、今年も年末を迎えました。

悲喜交々…振り返ればいろいろ思い出されますが、



何はともあれ、日々無事に過ごせたことに感謝しています。

これからはどちらのお宅でも、大掃除、年賀状やおせち料理の用意など新年を迎える準備で お忙しいことと思いますが、無理をせずにお元気で
お過ごしくださいね。



この1年も大変お世話になり、ありがとうございました。



建築のいろはにほへと・・・？

【建築確認】

建築確認とは建築基準法などの法律に適合しているかどうかの公的審査で、ほぼすべての住宅は新築時に建築確認でチェックを受ける必要があります。

建築確認を行うのは、「建築主事」と呼ばれる特定行政庁（一定規模以上の市）に置かれた担当者、もしくは「指定確認検査機関」と呼ばれる国の指定を受けた専門の民間機関です。

チェックは、原則3回行われます。

先ず書類と設計図書をチェックされ、問題がなければ「**確認済証**」が公付され、工事をスタートできます。次に地域や建物の種類によっては「**中間検査**」と呼ばれる建築中の現場チェックが行われ、問題がなければ「**中間検査合格証**」が交付されます。

工事完了後には現場チェック「**完了検査**」が行われ、問題がなければ「**検査済証**」が交付されます。

検査済証がないと住宅ローンを実行しない金融機関も多くなっています。

以前に起きた「アネハ事件」と呼ばれた建築確認の不正が発覚して以降、建築基準法と建築確認が厳格化されました。

逆に言えば、それまでの建築確認は、かたちばかりで、完了検査を受けない物件も多かったのです。

現在は、改正もあって違法建築も少なくなっています。建築確認は建築主の義務ですが、
建築業者がすべて代行してくれます。



*当社では、

国土交通大臣指定 住宅瑕疵担保責任保険法人

(株)日本住宅保証検査機構 に委託しております。

「十二支のおはなし」

昔々、ある暮れのこと。神様が動物たちに「元日の朝、私のところへ最初に到着したのものから12番目のものまでを1年交代でその年の大将にする」とお触れを出しました。動物たちは、我こそが1番になるぞ！と張り切りました。ところがネコはその話を聞き漏らし、ネズミに尋ねました。するとネズミはわざと1日遅れの日付を教えてやり、ネコはそれを真に受けて帰っていきました。元日、足の遅いウシが誰よりも早く出発すると、牛小屋の天井でこれを見ていたネズミが、こっそりウシの背中に飛び乗りました。そんなこととは知らないウシが神様の家に行ってみると、夜明け前でまだ誰も来ておらず門も閉まったまま。我こそが1番だとウシは喜び、門が開くのを待っていました。やがて日が昇り門が開いた途端、ウシの背中からネズミが飛び降りネズミが1番になってしまいました。残念ながらウシは2番となり、それから、トラ、ウサギ、タツ、ヘビ、ウマ、ヒツジ、サル、トリ、イヌ、イノシシの順で到着しました。

1日遅れで出かけたネコは、番外となり、それ以来ネズミを恨んで追い回すようになったとか・・・？



クリスマス会のドレス



これからクリスマスを迎える季節になり、保育園や学校でも楽しい集まりが催されることでしょうね。今回は、そんな季節にふさわしい心温まるお話を紹介します。

俺には妹がいるんだけど、これがなんと 10 も歳が離れている。しかも俺が 13、妹が 3 歳の時に母親が亡くなったので、以来、俺が母親代わり。

父親は仕事で忙しかったから、妹の世話はほぼ俺の担当。食事をさせたりお風呂に入れたり・・・と自分なりに一生懸命やっていたと思う。

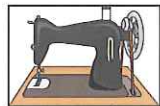
妹が 5 歳の時のこと。いつものように、保育園に迎えに行ったら、何故か妹が大泣きしている???

わけを聞くと、その日クリスマス会でする劇の役を決めたのだが、妹はやりたかった役になれなかったらしい。

「まあそれは仕方ない、諦めなよ」と最初は論じたのだけれど、よ〜く話を聞いてみると、どうもおかしい。

その劇には、いろんな動物や妖精などが登場するらしい。でも女の子の一番人気は妖精で、妹も当然それがやりたかったようだ。希望者が多かったので、先生は恨みっこなしのじゃんけんで決めることになり、妹は見事に勝ち抜いて妖精 5 人のうちの一人に選ばれた。

ところが、「〇〇ちゃんは動物の方がいいんじゃない?」と、先生が妹を妖精の役から外したという。そんな馬鹿など思いながら、俺はすぐに保育園に電話をして確かめた。



そこで分かったのは、

劇の衣装は保護者が作らなければいけないこと。妖精のひらひらした衣装はとても難しく、母親のいない家では無理だろうと判断され、ただ、お面などを作れば済む動物役に割り振られたとのことだった。

先生も決して悪気があってそうしたわけではないだろうが、俺は妹に母親がいない引け目を感じさせたくなくてそれまで頑張ってきただけに、かなりショックだった。

それで、裁縫なんて家庭科実習でボタン付けぐらいしか経験がなかったのに、「絶対にちゃんと作るので、妹に妖精役をやらせてほしい」って頼みこみました。

結局、先生が根負けて妖精は 6 人になり、それからの俺は、放課後になると学校の家庭科教室に通い詰めた。家にミシンなんて無かったし、保育園かららってきた材料と型紙だけじゃ全然わからなかったの、家庭科の教師に教わりに行ったんです。



当時、俺は受験生だったし、教師も同情して「代わりに作ってあげる」って言ってくれたけど、俺は意地でも自分の手で縫い上げてやりたかった。他の子と同じように、家族が愛情込めて作った衣装で舞台上に立たせてやりたかったんです。2 週間ほとんどかかりっきりで、**ようやく衣装完成!!**



ふんわり広がるスカートにスパンコールをたくさん縫い付け、レースを使った羽根、花の形の衿。縫い目なんかはガタガタだった。けれど、遠目には他の子たちの衣装と全然変わらなかったと思う。

出来上がった衣装を始めて妹に見せた時の歓声は今でも忘れられません。着せてあげた時の最高の笑顔も、本番の舞台で緊張しながらも一生懸命だった顔も、その夜、衣装を着たまま寝ちゃった寝顔も、ずっと覚えています。

「編集後記」

師走を迎えましたが、この 1 年を振り返り皆様のご感想は？私は、時間に追われ心身ともに余裕がなかった日々を思い、忙しきにかまけ、大切なころまでどこかへ置き忘れてしまったような時もあったのでは？と反省しています。それでも周囲の方々に支えていただき無事に仕事ができ、何よりも健康で過ごせたことはとても幸せでした。感謝・感謝です。さて、来年は酉年。酉は「良運をトリ込む」につながることから縁起の良い干支とされてきました。期待が膨らみますね。今年もやすらぎ通信をお読みいただきありがとうございます。ご家族お揃いで、どうぞ良いお年をお迎えください！

※「やすらぎ通信」をメールでご覧いただけます。

ご希望の方は、アドレスをお知らせください。

編集責任者

渡辺 田鶴子

